



(C) M.Nakajima

日本針灸写真協会
活動報告 2006

Japan Pinhole Photographic Society

目次 Contents

会長挨拶	1
------	---

平成17年度のイベント報告

春の針穴写真撮影会	2
針穴写真研修会 -ピンホールの開け方-	3
世界ピンホール写真デー(WPPD)	4
東京写真月間「1000人の写真展 わたしのこの1枚」	5
ワークショップ -田所美恵子・針穴写真展-	
会員写真展	6
ワークショップ1 -ブローニーフィルム(6×7)使用のピンホールカメラの作製-	7
ワークショップ2 -簡単なピンホールカメラの作製と現像の実習-	8
ワークショップ3 -空き缶カメラの作製と現像の実習-	9
ワークショップ4 -シートフィルム(4×5inch)の撮影と現像-	10
秋の針穴写真撮影会	11
針穴写真座談会「私のカメラと作品」	12
ワークショップ5 -ブローニーフィルム(6×7)使用の木製ピンホールカメラの作製と撮影会-	13

平成17年度末のイベント

フォトイメージングエキスポ・2006 協賛・参加	14
ワークショップ6 -シートフィルム(4×5inch)使用の木製ピンホールカメラの作製と撮影会-	15
初心者対象講習会 -針穴写真教室-	16

日本針穴写真協会運営方針

平成18年度のイベント

イベント研修制度について	18
本部イベント予定	19
東京支部イベント予定	20
日本針穴写真協会 入会のご案内	21

会長挨拶

日本針穴写真協会会長 田所美恵子

寒き中にも春の足音が聞こえてくるような今日この頃です。会員の皆様方におかれましては、お健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日本針穴写真協会が昨年4月に正式に発足してから、早いものでもうじき一年が経とうとしています。本協会は2006年2月現在、500名を超える会員を有するまでになりました。この間、針穴写真の普及を目的とした本協会の趣旨にご賛同くださり、ご入会されました皆様に厚くお礼申し上げます。

本来ならばこの初年度の会報は前会長の鈴鹿芳康氏のもと、京都本部が皆様に対してお送りすべきものでしたが、すでにお知らせいたしましたように、一周年を待たずに京都の設立メンバーが退会したため、2005年11月に移転を済ませた東京の本部からこの会報を発行し、2006年1月より会長に就任いたしました私が皆様にご挨拶させていただくこととなりました。

ここ数年、針穴写真が広く親しまれるようになりましたが、特にこの一年は、カメラ雑誌だけでなく、様々なメディアでの露出が急増しています。1839年の写真誕生以来、針穴写真のブームというのはいくつかありましたが、現在の状況はこれまでのものと少し違っているように思います。それは、今まで写真界の中だけに閉ざされていた針穴写真が、感光材料の性能の向上などにより、いわば写真の「素人」でも手軽に楽しむことができるようになったことが理由のひとつにあります。また、カメラ付き携帯などデジタル化が進む中で、多少の手間隙をかけても創造的な写真を撮りたいと考える人が増えていることもあります。

従来の写真の枠にとらわれず、もっと新鮮で柔軟な発想が活かせるのが針穴写真の良さですから、これからも更に針穴写真に関心をもたれる方が増えることでしょう。本協会が発足当初より掲げてまいりました、プロ・アマを問わず針穴写真に興味を持つすべての方を対象に活動していくという方針は、このように、まさに今私たちが置かれている状況に沿ったものだと考えています。

会報ではこの一年の活動状況をお知らせいたしますとともに、今後の活動方針についてもご案内しております。すでに様々なワークショップに参加された方もいらっしゃいますが、次年度も同様に本協会の様々なイベントを通じて、針穴写真の魅力を皆様とご一緒に開拓していきたいと願っております。

2006年2月
日本針穴写真協会会長
田所美恵子

春の針穴写真撮影会

平成17年度のイベント報告

日本針穴写真協会発足イベントとして4月2日、3日、4日の3日間、都内の桜の名所で針穴写真撮影会を実施いたしました。

- 【日程】 4月2日(土)井の頭公園 13:00~15:00
4月3日(日)新宿御苑 10:00~14:30
4月4日(月)北の丸公園・千鳥が淵 13:00~15:00

4月2日はあいにくの曇り空。さらにとても寒い一日で、残念ながら桜はほとんど咲いていませんでした。それでも総勢20名が参加され、「初めまして」の挨拶とともにお互いのカメラや撮影スタイルなどで話が盛り上がりました。広い公園内に思い思いの撮影場所を見つけて撮影されました。初めての方も多く、複数台のカメラを持ってきた人が貸すなどして楽しまれたようです。撮影会終了後は近くのカフェに立ち寄り、情報交換に花が咲きました。



4月3日は前日とうって変わっていいお天気。まだ寒さは残るものの陽射しがあり、針穴日和となりました。広い園内だけあって色々な植物があり、撮影ポイントもそれぞれ。満開のしだれ桜の下には、自然と皆さんが集まってくる場面も見られました。売店があるレストハウスでの昼食時には、お互いのカメラなどの話題も尽きず、話が続けました。撮影会は14:30でいったん終了しましたが、その後も個人での撮影は続いたようです。



4月4日は平日の月曜日とあって、参加者も6名と少なめでした。そのため思い思いの場所に散るのではなく、全員で移動しながらの撮影会となりました。寒さの残る中、ちらほらと咲き始めた桜を撮ったり、撮影スタイルやカメラなどで話が弾みました。途中、大道芸を見たりと、のんびりした雰囲気を楽しむことができました。



針穴写真研修会 — ピンホールの開け方 —

平成17年度のイベント報告

針穴写真の写り方は、ピンホールの開け方に大きく影響されます。自分がどのような針穴写真を撮りたいのか。それにはどのようなピンホールを開ければ良いのか。知識と技術を身につけて、より自分らしい針穴写真を目指しました。

【日時】 4月23日(土) 13:00~17:00

【会場】 吉祥寺北コミュニティセンター 2階 多目的室

【内容】 講義

最適ピンホール径

ピンホール径と解像度

ピンホール素材・画角と周辺光量の関係

実習

銅箔(厚さ0.01mm)に直径0.3mmのピンホールを開ける実習



ピンホールが写真におよぼす影響についての説明に続き、皆さんに実習を行っていただきました。ピンホールの開け方には様々な方法がありますが、今回は待ち針を使い、銅箔にピンホールを開け、できたバリを紙やすりで取り、きれいな真円のピンホールにする方法をご紹介します。

まずピンホールの開け方を説明した後、アルミ箔を使って練習をしていただき、慣れてきたところで厚さ0.01mmの銅箔に直径約0.3mmのピンホールを開けることに挑戦していただきました。直径約0.3mmのピンホールは、肉眼ではその形をしっかりと捉えることはできません。丸く見える穴でも、ルーペ等を使って拡大してみると、バリやゆがみが見えてきます。しっかりと確認しながらの作業となりました。

初めはむずかしそうに作業をしていた方も、30分後にはご自身の開けたピンホールに満足感と自信の表情が伺えるようになり、1時間後には皆さん笑顔で実習を終了することができました。スタッフもやっと笑顔になることができました。

23名の参加者の多くは都内の方でしたが、千葉、横浜、茨城から2~3時間かけて参加された方もいらっしゃいました。



世界ピンホール写真デー (WPPD)

平成17年度のイベント報告

世界ピンホール写真デー(WPPD:Worldwide Pinhole Photography Day)とは？
針穴写真芸術を讃え、推進するために2001年に発足した世界的なイベントです。
国際会員のGregg Kemp氏をリーダーとして、JPPS 国際部長、E・レビンソン氏や、Tom Miller氏、
Zernike Au氏 などが呼びかけて始まったものです。



急速に進化してきた写真の技術に対し、少し距離を置き、写真の原点である針穴写真を撮ることにより、創造力を高め、古典的技法による表現を見直し、全世界でその喜びを共有する目的を持っています。

世界中の人が、毎年4月の最終日曜日に針穴写真を撮り、その中の一枚をWEB上のオンラインギャラリーに投稿し、公開します。まさに針穴写真の楽しみを共有するイベントです。



2001年の第1回、24カ国、291点から年々参加者が増え、2005年には、世界52カ国、1815点(日本からは162点)の参加がありました。JPPSもグループ名を登録し、会員30名が応募しました。協会としては一人でも多くの会員に知って頂くため、2005年4月24日(日)針穴写真撮影会を東京お台場で行いました。35名の参加者が思い思いの針穴写真を撮影しました。



PHaT PHOTO編集部、アサヒカメラ、(株)シャランも参加していただき、針穴写真撮影会を応援してくださいました。また、読売テレビや朝日新聞社などの取材もあり、天候にも恵まれ気持ちの良い一日で、様々な作品が生まれました。

2006年の第6回WPPDは、4月30日(日)です。Webサイトにアップし、世界中の針穴写真愛好家と喜びを分かち合いましょう。

東京写真月間「1000人の写真展 わたしのこの1枚」

平成17年度のイベント報告

6月1日の「写真の日」を中心とした5～6月にかけて、東京写真月間実行委員会主催（日本写真協会と東京都写真美術館）で各種催し物が行われました。その一つが「1000人の写真展 わたしのこの1枚」です。参加するには、専用のボード（30×30cm）を購入し、撮影した写真（複数可）を貼り、出展します。ボードには番号が振ってあり、番号順に写真を並べます。

協会では実行委員会へ伺い、36枚連番で購入し、作品が針穴写真であることを表示する許可も得ました。作品は新宿パークタワーアトリウムで、5月26日～29日まで展示されました。36枚の「針穴写真」がズラリと並べられ、好評でした。会場展示の後、ホームページへ作品を掲載した所、大きな反響がありました。平成18年は、さらに多くの方のご参加を期待しています。



ワークショップ — 田所美恵子・針穴写真展 —

平成17年度のイベント報告

2005年5月8日～29日まで、現会長、田所美恵子・針穴写真展「誰も見たことのないもうひとつのパリ」が銀座・ポラミュージアムアネックスで開催されました。田所会長の尽力で、日本針穴写真協会も協力団体として名前を連ね、ワークショップに協力致しました。会期中、土曜日はギャラリートーク40名×3回、日曜日の針穴写真撮影会は前日の受講者の中から20名×3回を行ないました。ワークショップは、協会で用意したキャビネの印画紙用ピンホールカメラを使用し、銀座の歩行者天国で撮影しました。ボランティアスタッフとして、延べ40名の会員に協力していただきました。



受講者は殆どの方が初心者でしたが、極力ご本人に体験して貰う方針で行いました。

終了後、田所会長の講評を受け、「自分の作品」ができた喜びと感激を実感して頂きました。展覧会も大好評で、約5000名の入場者があり、同美術館開館以来の新記録となりました。用意した入会案内書3000通も会期半ばで配付終了、多くの方に協会を知っていただくことができました。



会員写真展

平成17年度のイベント報告

日本針穴写真協会発足記念企画として6月7日～12日に『The 1st Pinhole Photo Week in Kyoto』を行いました。この関連企画として、会員展『光画術 -微光の描写-』を開催しました。

【日程】6月7日(火)～12日(日) 京都造形芸術大学内 GALLERY RAKU

2005年6月7日～12日、京都の街の5カ所で針穴写真による個展が開かれ、京都造形芸術大学内のGALLERY RAKUでは、会員の皆さんの作品による会員展『光画術 -微光の描写-』が開かれました。日本各地から約50名の方の出展があり、それぞれ趣向を凝らした形での作品展示となりました。額の大さき、形状、写真の撮り方、大きさ、構成方法など、作品を見せる様々な工夫が随所に見られ、初めての会員展にふさわしいものでした。被写体への思いが、撮り方のスタイル、見せ方の工夫で、1つ1つの作品に込められ、見る人に深い印象を与えたことと思います。会員の皆さんの作品を目にすると、針穴写真に込められた、自由な発想と表現の力を、改めて強く感じる事ができたように思えます。初めて針穴写真を見た人には、新鮮な感動と驚きを、既に撮られている人には、新たな可能性を、会員の皆さんの作品そのもので提示できた空間でした。



ワークショップ ①

ブローニーフィルム(6×7)使用のピンホールカメラの作製

平成17年度のイベント報告

【場所】江東区文化センター・工芸室

【日時】6月25日(土) 13:00～17:00

本格的な手作りカメラを作る第1回目のワークショップ。今回は印画紙の空き箱を使って、ブローニーフィルム(6×7)使用のピンホールカメラを作製しました。あらかじめ用意された部品を、テキストを見ながら、1つずつ組み立てていく作業はかなり複雑でした。参加された23名の皆さんは、ほとんど休憩も取らず作業に集中されましたが、作業開始から4時間が過ぎても終わらず、結局、施設利用時間を延長しました。先に完成された方が他の方の作業を手伝って下さったおかげで、ほとんどの方がその後1～2時間で完成することができました。

今回のワークショップで作製したカメラには、市販されているブローニーフィルムを使います。フィルムの調達が比較的容易で、1本で8カット撮影でき、現像はお店に出すことができます。そのため、チェンジバックの扱いや暗室作業の苦手な人でも、撮影を楽しむことができます。また、中判サイズフィルムの滑らかな描写が、新たな撮影スタイルに導いてくれると思います。



ワークショップ ②

簡単なピンホールカメラの作製と現像の実習

平成17年度のイベント報告

印画紙の空き箱を利用した、簡単なピンホールカメラを作製しました。これは通常印画紙(キャビネサイズ)を使用して撮影しますが、オプション部品のフィルムホルダーを作ることで4×5サイズのシートフィルムも使えるようになるカメラです。家での暗室作業が難しい人は、印画紙しか使えないとなかなか自分で撮影できませんが、市販のシートフィルムを使用できると、現像をお店に出すことができ、撮影のチャンスが広がります。また、実際に暗室作業をしてみると、意外と難しくないことを実感します。少しの工夫と知識があれば、自宅でもチャレンジできる可能性があることを知ってもらう機会になったワークショップでした。

【場所】 江東区文化センター工芸室、教材作製室。

【日程】 7月30日(土) 13:00~17:00 (カメラ作製:1階工芸室)

7月31日(日) 9:00~17:00 (ピンホール作製、撮影、現像:3階教材作製室)



1日目は印画紙の空き箱を利用して、カメラを作製しました。今回はフィルム送り装置など無い、シンプルな構造のカメラです。またオプション部品として4×5サイズのシートフィルムホルダーも作りしました。ほとんどの方が時間内にピンホールまで作ることができ、完成した状態で帰路につかれました。



2日目は完成したカメラを使い、撮影方法の説明を受け、まずは江東区文化センター近くで撮影をしました。戻ってきて印画紙現像の説明を受けてから、数人ずつ暗室に入り現像を体験。午後は江東区文化センター近くにある親水公園で撮影しました。この時、スタッフがダークバッグを持って同行し、実際にダークバッグを使って印画紙を交換する作業も行っていました。災天下でのダークバッグの作業はなかなか大変でしたが、数回やるうちに皆さん慣れて手早く交換できるようになりました。撮影したものを暗室内でネガ現像し、さらに反転作業を行うという行程を数度繰り返し、ご自分の作品を何枚か持ち帰っていただくことができました。実際に撮ってきた作品を手に入れ、皆さん会話がとても弾んだ様子でした。



ワークショップ ③

空き缶カメラの作製と現像の実習

平成17年度のイベント報告

ピンホール写真と聞くと、空き缶を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか？そこで今回のワークショップは、お気に入りの空き缶を持参していただいて、それを使った空き缶カメラを作製しました。また2日目は、完成した空き缶カメラで印画紙を使って撮影し、現像の作業の実習をしました。

【場所】江東区文化センター工芸室、教材作製室。

【日程】9月3日(土)13:00~17:00 (空き缶カメラ作製:1階工芸室)

9月4日(日)10:00~17:00 (撮影、現像:3階教材作製室)

1日目は持参した空き缶を使って、空き缶カメラの作製です。最初に田所美恵子現会長からレクチャーがあり、皆さん真剣な面持ちに。空き缶カメラの持つ奥の深さを実感していただいて、作製に入りました。小さなお菓子の空き缶や、とても大きなお茶の缶など、持参された空き缶は大きさも形も柄も様々。それぞれの缶の特徴を活かせるようスタッフに質問される場面も多々ありました。お気に入りの空き缶を使って作るカメラは、まさに世界でたったひとつ。そのたったひとつのカメラを完成させ、翌日の撮影を楽しみにされながら、無事に1日目の作業を終了しました。

2日目の午前中は、完成した空き缶カメラに印画紙を装着し、テスト撮影と現像作業の実習。午後からは江東区文化センター近くにある親水公園で撮影しました。この時、スタッフがダークバッグを持って同行し、実際に印画紙を交換する作業も体験してもらいました。撮影しては現像を繰り返すうちに、暗室内での作業も少しずつ慣れていただけました。今回はカメラの形状の違いが、作品の特徴にもなり、お互いの空き缶カメラと作品を見て話すことで、多くの情報を得ることができたようです。



ワークショップ 4

シートフィルム(4×5inch)の撮影と現像

平成17年度のイベント報告

大判のシートフィルムの描写が素晴らしいことは知っていても、普段扱ったことがない方には、敷居が高いものです。そこでこのワークショップではシートフィルムの扱い方を知っていただき、さらにあらかじめ用意したカメラを使って撮影し、現像までを体験していただきました。

【場所】 江東区文化センター教材作製室

【日程】 9月18日(日) 10:00~17:00

まず、シートフィルムの扱い方の説明からスタート。扱いのコツ、パッケージの中はどのようになっているか、フィルムの表裏識別の仕方などを、現物を見ながら行いました。同時に、シートフィルム関連のものとして、4×5ホルダーや、8×10ホルダー、シートフィルムを使う手作りピンホールカメラ、作例の紹介などもありました。その後、今回行うバットを使った皿現像の手順の説明があり、用意されたピンホールカメラにシートフィルムを装填後、テスト撮影を行い、現像作業の実習をしました。



昼食を挟んで午後からは再び撮影と、ダークバッグを使った外でのフィルム交換をしていただき、複数枚の現像の後、密着プリントの作製まで行いました。敷居が高いと感じていたシートフィルムも、目の前で触って説明を受けるだけで、ぐっと身近なものに感じていただけたと思います。また、未経験の感剤を知ることは、撮影スタイルや作例の新たな扉を開くことに繋がると信じています。



秋の針穴写真撮影会

平成17年度のイベント報告

秋の花コスモスをテーマに、キバナコスモスが見頃を迎えた浜離宮恩賜庭園で、秋の針穴写真撮影会を実施しました

【場所】10月1日(土) 浜離宮恩賜庭園 13:00~15:00

当日は良いお天気の中、総勢36名の方が参加されました。とても10月とは思えない陽射しの強さ、気温の高さではありませんが、撮影日和だったと思います。この日はちょうど都民の日ということで、入園料も無料になっており、ピクニックする家族連れや、一眼レフを抱えた方などが、秋の休日を楽しんでいました。



立派な日本庭園の中、彼岸花が咲き、ヒンヤリした林もあり、東京湾も望めるので、様々なシーンを針穴から流し込むことができました。肝心のキバナコスモスは少々期待はずれでしたが、お互いのカメラを見たり、工夫された撮影スタイルなど、情報交換も盛んに行われたようです。



針穴写真座談会「私のカメラと作品」

平成17年度のイベント報告

JPPS会員には、全くの初心者からプロの方まで、年齢も10代から80代までと幅広く、カメラづくりを楽しんでいる方、作品づくりに燃えている方など、多士済々です。

そこで、皆様が使われているピンホールカメラや作品を持ち寄っていただき、撮影方法や表現方法について情報交換を行なう集まりを企画し、25名の方々にご参加いただきました。

座談会の初めに、残念ながら出席はできないものの、皆様に見ていただきたいと地方の会員から寄せられたカメラの写真とその作品のパネルをご紹介します。続いて、出席された方がお持ちになった、カメラ、写真、手作り写真集を御披露いただきました。

中でも注目されたのは、自作カメラの精密な設計図のファイルや、フィルムの裏紙を利用した超軽量「折りたたみ式」一枚撮りカメラ、木工・金属削り出し・塗装技術を駆使した超広角カメラやステレオカメラ、中古カメラ部品を利用したカメラ、パノラマカメラなど、アイデアや技術溢れるカメラの数々です。



また、花火写真を撮り続けている方、望遠缶カメラ一筋の方、個展を行ったり、展覧会に出品されている方などの熱のあるお話も聞くことができました。

さらに、初めて撮った一枚や、これまでに撮りためた写真の作品集を直に鑑賞させていただくこともできました。

休憩時間には、それぞれ興味のある方のところへ行き、直接質問したり、カメラを触らせていただいたり、撮影の苦勞談、工夫談を聞いたりして、大いに盛り上がりました。同じ針穴写真ではありますが、表現やカメラづくりの多様さに、回りしれない可能性を感じるひとときとなりました。

またこういう機会をぜひという嬉しい声も聞かれる、和やかな会となりました。



ワークショップ 5

ブローニーフィルム(6×7)使用の木製ピンホールカメラの作製と撮影会

平成17年度のイベント報告

6月に行った、6×7判ピンホールカメラ作製のワークショップは、申し込み多数のため、受講できない方がいました。そのため、再びブローニーフィルムを使用するピンホールカメラ作製のワークショップを行いました。2回目となる今回は、前回のものよりバージョンアップされた、木製のピンホールカメラを作製しました。

【場所】 江東区文化センター・工芸室、第二会議室

【日時】 11月19日(土) 9:00～17:00 (カメラ作製：工芸室)

11月20日(日) 10:00～12:00 (カメラ作製：工芸室)

13:00～17:00 (撮影会：第二会議室)

1日目は、カメラの作製。今回は印画紙の空き箱を使う物から、さらにバージョンアップして、木材を使って箱から作るカメラです。前回と同じように、ブローニーフィルムを使用して6×7判で撮影できます。カメラの外箱から、内部ユニットと、作製工程はかなり複雑で時間がかかります。参加された皆さんは、ほとんど休憩も取らずに作業をされましたが、時間内に完成するには至りませんでした。



そこで2日目の予定を変更して、午前中から午後の前半までを、カメラ作製に充てることにしました。夕方前には、皆さんカメラを完成させ、無事にテスト撮影を行うことができました。今回は、参加できないが材料だけでも分けて欲しいという問い合わせや、長野県、兵庫県から参加された方もいて、改めてブローニーフィルムの人気の高さを感じました。ただ、ブローニーフィルムを使うことで、内部の構造が複雑になってしまい、作製の行程にどうしても時間がかかってしまいます。しかしその分、完成した時の喜びも大きく、撮られた作品への愛情もさらに深いものになるのではないのでしょうか。



フォトイメージングエキスポ・2006 協賛・参加

平成17年度末のイベント

昨秋、「フォトイメージングエキスポ・2006」(以下、PIE・2006)運営事務局より、協賛団体として協力していただきたい旨の依頼がありました。日本針穴写真協会 の名義を、PIE・2006のホームページ、出版物、パンフレット、等へ記載したいとのことです。

フォトイメージングエキスポについて少しご紹介致しますと、従来、3月中旬に開催されていた「日本カメラショー」「写真映像用品ショー」「ラボシステムショー」「IPPF・国際プロフォト・フェア」を統合発展させ強化した写真映像機器の総合展示会で、昨年度の入場者数は、10万6千人を数えています。2006年は、「写真と映像の未来がみえる、夢の祭典」をキャッチフレーズに、カメラ 映像機器工業会、写真感光材料工業会、日本カラーラボ協会、日本写真映像用品工業会が主催し、世界15カ国から150社以上が参加予定です。場内では、写真映像関連機器商品の展示の他、「フューチャーパーク」「ニュージェネレーションパーク」「キッズ&ファミリー・フォトパーク」が設置され、養老孟司氏の基調講演「脳と映像の地形図」をはじめ、各種セミナーが行なわれます。

当協会(日本針穴写真協会)は、協議の上、承諾の返事をしました。時を前後して、イベント担当会社から、会場で「針穴写真のワークショップを企画したいので協力を」との話もあり、打ち合わせをしました。その後、日本写真協会から連絡が入り、「私共も、青少年向けに写真啓蒙のため、ワークショップを企画している。ついては、協賛という形で一緒に行いたい」という事で、企画の重なるところがあるため応諾し、関係者との打合せを持ちました。月に一回の打ち合わせを重ね、2月8日の段階で、全体像が決まりました。

このワークショップは、『親子で楽しむ写真の世界～ピンホールカメラ撮影・現像・プリント体験ツアー』と名付け、PIE・2006の会場の東京ビッグサイト「キッズ&ファミリーフォトパーク」コーナーで3月25日(土)、26日(日)の二日間行なわれます。一回あたり10組20名(親子での参加)を初日6回、二日目5回の計 11回110組220名を対象としています。

内容は、巨大ピンホールカメラ体験を含むレクチャーから針穴写真撮影、現像、引き伸ばし、セミナーを予定しており、日本針穴写真協会は、針穴写真撮影指導を担当します。この他に、当協会は、会員手作り針穴(ピンホール)カメラの展示及び針穴写真作品の展示、針穴写真相談コーナー開設、セミナー開催をいたします。セミナーは、3月25日(土)に、田所美恵子会長が「針穴写真の魅力」と題して講演予定です。ちょうど田所会長初の写真集が刊行される時期でもあり、本に関するお話も聴けるかもしれません。

このようなイベントに、設立間もない日本針穴写真協会が協賛団体として名を連ねることは、名譽なことであると思います。写真界が急速にデジタル化している今、写真の原点である針穴写真での表現とその可能性の魅力を伝え、拡げ、認識して頂く良い機会になることと思います。



ワークショップ 6

シートフィルム(4×5inch)使用の木製ピンホールカメラの作製と撮影会

平成17年度のイベント

本格的な4×5inchシートフィルムホルダーを使用する木製ピンホールカメラを作製します。カメラ自体の構造は簡単ですので、工作技術に自信がない方でも作製できます。また、シートフィルム(4×5inch)を使用したことのない方でもなれば、十分使用可能です。ご自身で作製した45(しのご)ピンホールカメラで撮影を楽しみ、大判フィルムのすばらしい質感ある写真を堪能してください。

【場所】江東区文化センター・工芸室、教材製作室

【日時】2月18日(土) 9:00~17:00 (カメラ作製:1階 工芸室)

2月19日(日) 13:00~17:00 (テスト撮影・現像:3階 教材製作室)

【内容】1日目

ピンホールカメラの作製/カメラ本体の組み立て/塗装/ホットボンドによる遮光/ピンホールの作製

2日目

シートフィルムの扱い方/モノクロ4×5inchシートフィルムを使用してのテスト撮影/フィルム現像の実習

このピンホールカメラは、ワークショップ用に考案・設計したもので、工作技術に自信がない方が作製しても十分機能するように設計してあります。ピンホールカメラにとって最も気をつけなければならないのは遮光性ですが、新たな工夫で十分に耐える遮光性を保持しています。また、シートフィルムホルダーをカメラに使用する場合、その取り付け部が問題になります。様々な方式がありますが、このカメラは全く今までに無い機構を考案し、単純な構造にもかかわらずワンタッチで脱着が可能です。また、装着状態で光線漏れも一切ありません。



初心者対象講習会 — 針穴写真教室 —

平成17年度のイベント

ここ数年の針穴写真ブームで、いくつかの雑誌には付録としてついていたたり、簡単なピンホールカメラが安価に販売されるなどして、より身近にピンホールカメラを手にすることができるようになりました。普及活動をしている我々にとっては良いことなのですが、普通のカメラとはちょっと違った写真が撮れるというだけの知識で手にしたピンホールカメラがすでに放置された状態になっていませんか？ 今一度、ピンホール写真の奥の深さを知っていただき、新たな認識を得ていただければと思います。

【場所】 江東区文化センター・教材製作室

【日時】 3月19日 13:00～17:00 (3階教材製作室)

【内容】

1. 講義 (13:30～14:30)

- ・針穴写真マニュアル(JPPS編集)に沿って基礎的な原理の説明
- ・様々なピンホールカメラとその作例の説明
- ・撮影技法による違いとその作例の説明
- ・針穴写真の特徴を生かした作例の説明

2. 演示 (14:30～16:30)

- ・撮影と現像(印画紙)の実際を見学
- ・針穴写真の原理と特徴を理解していただいた上で、実際の撮影の仕方、現像の様子を見ていただき、針穴写真の奥の深さを理解していただければと思います。

3. イベント研修制度の説明と受付 (16:30～17:00)

- ・この制度は、針穴写真協会のイベントにアシスタントとして参加していただきながら、経験と技術の習得をしていただく研修プログラムで、1年間を一つの単位としています。
この研修プログラムを行うことで、通常の5～10年分の経験ができるものと考えています。

日本針穴写真協会運営方針

協会発足数年で、支部活動の充実をはかり、全国の会員が、各支部で実施されるイベントに参加できるように務めたいと考えております。それには支部の新設と活動の充実を積極的に推し進める必要があります。もちろん、各支部を支える立場の方々の協力なしでは到底実現することは不可能です。本部としては、経験やノウハウを共有するためにスムーズなコミュニケーションの確立を念頭において協力して参りたいと考えております。

運営プラン

【今年度は、「協会活動の可能性とノウハウの蓄積」を目標とします】

東京支部を中心に4月から11月まで十数回の行事（撮影会、研修会、ワークショップ、座談会、1000人の写真展や世界ピンホール写真デー（WPPD）への参加等）を行い、それぞれの行事に関する企画・実施に関してノウハウを蓄積して参りました。

11月以降、東京に本部が移管されたのを契機に、「支部新設」も新たな目標とし、現在、北九州支部、大阪支部、北海道支部（何れも仮称）の新設をご検討いただいております。

【来年度は、「支部拡大」及び「支部活動の支援」を目標といたします】

全国から入会していただいている協会としては、身近に支部があることが最大の利点と受け止めております。これを実現するため、日本の各ブロックに最低一箇所の支部設立を目指します。また、各支部の置かれた環境により、活動内容についての助言やノウハウの提供なども行いません。

【再来年度以降は、「支部活動の充実」を目標にします】

支部活動が活発化して初めて会則に則った目的が達成されるのではないかと考えております。支部活動の支援と共に講師派遣をも視野に入れ、支部の円滑な活動の実現を目指します。

【会員の皆様とのコミュニケーションをとるため、さまざまな方法を検討・実施いたします】

ホームページの充実、メールマガジンの発行、会員の作品発表の場、Q&Aコーナーの新設、意見交換のための掲示板など、皆様のご意見を頂戴しながら、ホームページ上での情報交換を積極的に活用していきたいと考えております。また、会員合同展、世界ピンホール写真デー（WPPD）、および1000人の写真展への参加、会員作品の巡回展等、皆様が参加できる企画に、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

イベント研修制度について

平成18年度のイベント

イベントにアシスタントとして参加していただきながら、経験と技術の習得をしていただく研修プログラムを企画いたしました。意欲ある研修生を募集いたします。

【期間】1年間（平成18年4月～平成19年3月）

【定員】4～5名

【対象】針穴写真初心者で、針穴写真の技術習得に意欲のある方。

【条件】東京支部主催のイベント（土日及び祝日に実施）に7～8割出席が可能な方。

【費用】研修費は無料です。「東京写真月間 1000人の写真展」の参加には参加費が必要です。

【申込み方法】直接協会事務局に申し込んでいただくか、3月に行われる初心者対象「針穴写真教室」に参加したときに申込みをしてください。

プログラム① 受講生と一緒に実習をしていただきます

- ・講習会「初心者のためのピンホール写真」
- ・ワークショップ ピンホールの開け方
- ・ワークショップ 簡単なピンホールカメラ（印画紙使用）の作製

プログラム② 講師・スタッフのアシスタントとして準備や受講生のサポートをしていただきます

- ・ワークショップ 空き缶カメラの作製
- ・ワークショップ プローネーフィルム(67)使用のピンホールカメラの作製
- ・ワークショップ シートフィルム(4×5inch)使用のピンホールカメラの作製

プログラム③ 講師・スタッフのアシスタントを行うと共に、実習もしていただきます

- ・ワークショップ 印画紙使用のピンホールカメラによる撮影と現像
- ・ワークショップ シートフィルム使用のピンホールカメラによる撮影と現像(皿現像)

その他のイベントにも出来るだけ参加していただきます。

- ・東京写真月間 1000人の写真展
- ・WPPD撮影会
- ・春の針穴写真撮影会
- ・秋の針穴写真撮影会
- ・座談会「私のピンホールカメラと作品」

本部イベント予定

平成18年度のイベント予定

来年度は、運営方針に述べたとおり「支部拡大」及び「支部活動の支援」を目標といたします。

全国的なイベントにつきましては、難しい所がございますが、全国から入会していただいている協会としては、身近に支部があることが最大の利点と受け止めております。これを実現するため、日本の各ブロックに最低一箇所の支部設立を目指し、各支部の置かれた環境により、活動内容についての助言やノウハウの提供なども行うことを目標といたします。各支部の活動を活発化することにより、針穴写真のよりいっそうの普及に努めたいと考えております。また、会員への情報発信、各イベントのお知らせ・報告、作品発表や意見交換の場として、ホームページを有効に活用できるよう努めたいと考えます。

本部イベントとしては、下記のを予定しております。

平成18年度のイベント予定

- 4月 撮影会・世界ピンホール写真デー (WPPD) への参加
- 5月 田所会長、写真展への協賛
- 6月 東京写真月間「1000人の写真展」への参加
- 8月 総会・会員写真展・シンポジウム・講演会
- 3月 「フォトイメージングエキスポ・2007」への協賛予定

東京支部イベント予定

平成18年度のイベント

東京支部では平成17年度に実施したイベントを軸に新たなイベントを加えて実施する予定です。今年度実施したイベントでは、気軽に参加できるということで多くの参加者があった針穴写真撮影会、要望の強かったブローニーフィルム、シートフィルム使用のピンホールカメラの作製、初めて挑戦する方が多かった印画紙・フィルム現像等が印象に残ります。参加された方が気持ちよく帰れるイベントを心がけていきたいと思います。

平成18年度の東京支部イベント予定

2006.04	針穴写真研修会 ピンホールの開け方について 春の針穴写真撮影会
2006.05	ワークショップ 簡単なピンホールカメラ(印画紙使用)の作製
2006.06	ワークショップ ブローニーフィルムを使ったピンホールカメラの作製
2006.07	ワークショップ シートフィルム(4×5inch)の撮影と現像
2006.08	会員写真展
2006.09	ワークショップ ブローニーフィルムを使ったピンホールカメラの作製
2006.10	秋の針穴写真撮影会 座談会 「私のカメラと作品(仮称)」
2006.11	ワークショップ ブローニーフィルムを使ったパノラマカメラの作製
2006.12	ワークショップ 空き缶カメラの作製と現像
2007.01	ワークショップ 暗室実習(引き伸ばし)
2007.02	ワークショップ シートフィルム(4×5inch)を使ったピンホールカメラの作製
2007.03	講習会 「初心者のための針穴写真教室」

イベントの詳細につきましては、施設利用状況・天候等により変更・中止する場合があります。JPPSのWebページで順次ご案内いたしますので、ご確認ください。

日本針穴写真協会 入会のご案内

協会の目的は

「本当に針で開けた穴だけで写真が写せるのだろうか?」という素朴な疑問を持つ初心者から、芸術表現を追求する上級者にいたる針穴写真に興味を持つすべての人々を対象に、各種イベントやホームページなどを通じて、お互いの情報を交換し、カメラ作りや撮影方法などのノウハウを共有できる場を提供したいと思えます。

現代社会で見失われがちな、青少年の「科学する心」「素朴な感動」「失敗を恐れないチャレンジ精神」を楽しみながら養うとともに、一般社会に対しては、「芸術、思想、感情表現の手段」としての、針穴写真の地位向上を図ることを目的としています。

そして、本会を通じて友好の輪が広がることを願っています。

会員になると

- 1) 入会時にコンパクトで分かりやすい「針穴写真マニュアル」がもらえます。
- 2) 会員展、撮影会、ワークショップ、講演会等のご案内を受け取れます。
- 3) 針穴写真でわからないことは、メールやホームページを通して回答をもらえます。
- 4) 針穴写真をやっている他の会員との情報交換や交流ができます。

入会を希望される方へ

一般会員とインターネット会員があり、会員の特典は同じですが、通信手段が違いますので、年会費が異なります。

【一般会員】

協会からのご案内等は郵送でお送りいたします。

入会金 2,000円 年会費 2,000円

【インターネット会員】

協会からのご案内等はメールやJPPSのホームページでお知らせします。

入会金 2,000円 年会費 1,000円

【お申込み方法】

郵送の場合、入会申込書に必要事項をご記入の上、本部事務局宛に送付して下さい。

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 2-31-21 日本針穴写真協会 本部事務局

オンラインの場合、ホームページの入会申込み画面に直接入力して送信してください。

JPPSホームページ <http://jpps.jp/>

【ご送金方法】

入会金・年会費は、郵便振替でお願いいたします。

払込先: 口座名称: 日本針穴写真協会 口座番号: 00920-4-204427

【継続手続き】

毎年1月から3月末までに次年度の会費を同口座にご送金ください。



日本針穴写真協会

Japan Pinhole Photographic Society

<http://jpps.jp/>

jpps-info@jpps.jp